



JAPANESE A: LANGUAGE AND LITERATURE – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A : LANGUE ET LITTÉRATURE – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A: LENGUA Y LITERATURA – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Friday 9 May 2014 (morning)
Vendredi 9 mai 2014 (matin)
Viernes 9 de mayo de 2014 (mañana)

2 hours / 2 heures / 2 horas

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Question 1 consists of two texts for comparative analysis.
- Question 2 consists of two texts for comparative analysis.
- Choose either Question 1 or Question 2. Write one comparative textual analysis.
- The maximum mark for this examination paper is *[20 marks]*.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- La question 1 comporte deux textes pour l'analyse comparative.
- La question 2 comporte deux textes pour l'analyse comparative.
- Choisissez soit la question 1, soit la question 2. Rédigez une analyse comparative de textes.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est *[20 points]*.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- En la pregunta 1 hay dos textos para el análisis comparativo.
- En la pregunta 2 hay dos textos para el análisis comparativo.
- Elija la pregunta 1 o la pregunta 2. Escriba un análisis comparativo de los textos.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es *[20 puntos]*.

問題1か問題2のどちらかを選び、答えなさい。

1. 次の二つのテキストを分析して、比較対照しなさい。二つのテキストの共通点と相違点、また文脈、読者層、目的、そして形式や文体の特徴の重要性についても言及しなさい。

テキストA

30	25	20	15	10	5
<p>引き出した戦略的制服の多さでも、日本は群を抜いている。</p>	<p>悩みから解放してくれるコスプレだ。</p> <p>制服なら失敗はない。手っ取り早く成果が得られる。なんとローリスク・ハイリターンなのだろう。自分を表現するために何を着ようか、どう着こなそうか。制服は、私たちがそうした</p>	<p>これはコスプレのものではないか。</p> <p>「思考停止」と「コスプレ」だ。</p> <p>資料をあたり、取材を進めるうちに、二つのキーワードが浮上した。</p>	<p>か、私はそう確信するようになった。</p> <p>向かわせるのだろうか。</p> <p>「制服愛」にあふれているのか。私たちの「何」が制服へと</p>	<p>国・日本の特徴だ。</p> <p>着用が義務づけられていないのに、好きこのんで制服を買い求める人々が多いのも、制服大</p>	<p>日本は、世界最強の制服大国である。</p> <p>判で押したように同じようなスーツを着たサラリーマン。</p> <p>職務上何ら必要がないのに、妙に可愛い制服を着てオフィスワークに励むOL。</p> <p>ティーンを愛らしく演出する学生服を楽しむ女子高生。</p> <p>スチュワードス風の制服で携帯電話を売るケータイショップのお姉さん。</p> <p>頭にバンダナを巻き、黒いTシャツを着た新興ラーメン店のスタッフ。</p> <p>メイドの格好で、ご主人様を迎えるメイドカフェの女性従業員。</p> <p>町のあちこちに、制服に身を包んだ人々があふれている。警官や消防士、医者や看護師の制服など、職務上不可欠な制服はどの国にも存在するが、企業にも店にも、思い思いに工夫を凝らした制服がこれだけ浸透している国は、ちょっと例がない。</p>

三田村露子『コスプレ なぜ、日本人は制服が好きなのか』 祥伝社（2008）より抜粋

(注)

メイドカフェ メイド服姿のウェイトレスが使用人を振る舞い、客を主人のように接待するカフェ

コスプレ コスチューム・プレイ（和製英語）略。アニメやゲームなどの登場人物やキャラクターに扮する行為を指す。

テキストB

JALグループの制服がおしゃれに変身！

「鶴丸」も復活 企業スピリットを表現



都内で開催されたJALグループ新制服発表会にて
(2012年12月20日撮影)
©MODE PRESS

JALグループの制服が、2013年度上期（4～9月）より新たなデザインに変わります。国内外から空港を訪れる多くの人を出迎える“顔”ともいえる空港職員・客室乗務員の制服を手がけたのは、ファッションデザイナーの丸山敬太氏。プロジェクトに込めた想いについて、丸山氏に話を聞きました。

- 5 テーマは、清楚、上質、品格。JALの企業スピリットを表現すると同時に、着る人の美しさや凛々しさを引き立て、立ち居振る舞いを優美にみせるような制服を目指しました。毎日着用するものだからこそ、機能性や着心地、手入れのしやすさにもこだわっています。JALを象徴する「鶴丸」も約10年ぶりにモチーフとして取り入れました。とても日本らしい美しさと強さを併せ持った、大好きなロゴです。
- 10 制服が完成するまで、現場で働くスタッフの方と何度も意見を交わしました。丈やバランス、着用感など、仕事内容によって求められる要素は異なります。それに応えながら、JALらしさを追求し、試行錯誤しながら完成まで仕上げていきました。自分がデザインしたというよりも、みんなで一緒に力を合わせて作り上げた制服だと思っています。

- 15 航空会社は、海外から日本を訪れる旅行者を最初に出迎える窓口であり、その国を代表する存在。日本らしいおもてなしの精神を持って颯爽と働くスタッフの姿を、制服を通してサポートしたい。新しい服に着替えると、気分がぐっと上がり背筋が伸びるような気分になりますが、今回の制服がそういう意味で新生JALにより勢いをつけるものになれば嬉しいです。いつまでも飛行機は“夢のある乗り物”であってほしいと思います。

www.yomiuri.co.jp 読売新聞2013年1月6日

(注)

JAL Japan Airlines Co., Ltd. (日本航空株式会社)の略称。

鶴丸 JALの尾翼マークとして長年使われ、同社のシンボルとして知られた。一時廃止されていたが2011年から復活。

2. 次の二つのテキストを分析して、比較対照しなさい。二つのテキストの共通点と相違点、また文脈、読者層、目的、そして形式や文体の特徴の重要性についても言及しなさい。

テキストC

日一日とはなんであるのか

どんなにうまく一日を暮し終えても
夜明けまで起きていても
パンと牛乳の朝飯で又一日やり通している
彗星が出るというので原まで出て行っていた
ら
「みんなが空を見ているが何も落ちて来ない」と暗闇の中で言っている男がいた
その男と私と二人しか原にはいなかった
その男が帰った後すぐ私も家へ入った

郊外住居

街へ出て遅くなった
帰り路 肉屋が万国旗をつるして路いっぱい
に電燈をつけたまま
ひっそり寝静っていた

私はその前を通って全身を照らされた

夜の向うに広い海のある夢を見た

私は毎日一人で部屋の中にいた
そして 一日ずつ日を暮らした

秋は漸くふかく
私は電燈をつけたまままでなければ眠れない日
が多くなった

夜

私は夜を暗い異様に大きな都会のようなもの
ではあるまいかと思っている
そして
何処を探してももう夜には昼がない

夜がさみしい

眠れないので夜が更ける
私は電燈をつけたまま仰向けになって寝床に
入っている

電車の音が遠くから聞えてくると急に夜が糸
のように細長くなって
その端に電車がゆわえついている

尾形亀之助 詩集「雨になる朝」(1929)より抜粋、
角川書店「現代詩人全集第五巻」(1965)

テキストD

- 無意識の発見**
- フロイトが無意識を発見する必要があったのは、ヨーロッパが十八世紀以降、急速に都市化していったことと密接に関係している。それまでは、普通に日常に存在していた無意識が、どんどん見えないうものになっていった。だからこそ、フロイトが、無意識を「発見」したわけです。
- 5 もともと無意識というのは、発見されるものではなくて日常存在しているものです。なぜならば、我々は、毎日寝ています。寝ている間は誰もが無意識に近い状態です。夢を見ているといっても、覚醒している時とはまったく異なる、低下した意識ですから。
- 10 この寝ている時間というのを、今の人はおそらく人生から外して考えていると思われれます。脳によって作られた都市に生活している、というのもその理由のひとつでしょう。
- 15 若い人のライフスタイルを見ていると顕著です。彼らが主な客層であるコンビニは二十四時間営業。草木が眠る時間でも、コンビニだけは煌々と明かりを点し、若い人たちがたむろしている。要するに、彼らにとっては寝ている時間は存在していない時間であることの象徴です。
- 20 なぜ寝ている時間が無いのか。寝ている暇を勿体無いと思うのか。それは、無意識を人生のなかから除外してしまっているからです。意識が中心になっている証拠なのです。
- だから、若者はとにかく起きていようとす。極端に言えば、ギリギリまで起きていて、ぼったり倒れて眠る。そのためどんどん夜更かしになる。朝になると、多少とも仕事があつて、仕方がないから行ってこようかという風です。

養老孟司『バカの壁』新潮社（2003）より抜粋

(注)
フロイト ジークムント・フロイト (1856-1939)・・・オーストリア出身の精神科医、精神分析家。神経症、心的外傷、無意識や夢分析などの研究で知られ、20世紀の思想に広く大きな影響を及ぼした。